

学生と企業が商品開発

3大学・短大と17社・団体
料理や雑貨販売

同市や嘉麻市の居酒屋や生食の意見を取り入れた地元
雑貨販売店など17社・団体 食材を使ったステーキ丼、並ぶ。近大の建築・デザイン
と学生が参加。会場には学 生学科の学生と光和建設

（嘉麻市）が制作した「森」津仁志さん（38）は飯塚市で
をテーマにしたモニユメン は学生と企業、市民の交流
とも登場する。 の場「つなぐカフェ」の活
特設ステージでは近大吹 動がスタートしたことを挙
奏楽部による演奏、九工大 げ、「学生と企業がつな
サークルによるジャグリン ることが重要。学園都市と
グショーがある。九工大の して飯塚市がさらに盛り上
カメラ部は来場者を撮影 がるようにしていきたい」
し、会場に展示する。総合同 と話している。
会はタレントのゴリけんさ 入場無料。飯塚JC110
ん。飯塚JCで担当者の財 948（23）02662。

飯塚市内にある近畿大、近畿大九州短期大、九州工業大の学生と地場企業が開発した料理や雑貨を販売する「飯塚カレッジフェス」が20日午前10時から、同市枝国のイオン穂波ショッピングセンター

駐車場で開かれる。3大学・短大には計約4000人の学生がいるが、地域との関わりが少ないことから、飯塚青年会議所（JC）が「学生と企業をつなげ、地域を元気にしよう」と初めて企画した。

20日に「飯塚カレッジフェス」

ブローチをつくる小畑省吾さん（左）と一江直美さん



新たな街づくりへ期待 アイデア出し合いブローチ作り

今年初めて開かれる飯塚カレッジフェス。「物づくり」をテーマに、3大学・短大の学生と企業の取り組みが、新しい街づくりへつながることが期待される。
「色と大きさのバランスを考えた方がよいよ」。11日午後、飯塚市新飯塚の雑貨店「セレスト」。経営者の一江直美さん（43）が、近畿大の学生3人に声を掛けた。同フェスに向け、学生と一緒にブローチ作りを進めている。
同フェスを知った2年の小畑省吾さん（20）が顔見知りだった一江さんに作品作りを呼び掛けた。一江さんは「大学生らしい物を作ろう」と、学校にある廃材を使うことを提案。小畑さんらが、学内でロボットを作るサークルなどから部品を集めた。
経営ビジネスを学ぶ小畑さんは「物を作り、販売する実際の過程を学べ、貴重な経験となっている」と話し、一江さんは「これまであまり縁がなかった学生とつながりができたことは意味がある。縁が広がることで、飯塚にとってプラスの何かが生まれることを期待したい」と述べた。
（中川次郎）